

曹洞宗管長
大本山總持寺貫首

おおみちこうせん
大道晃仙

心、水の如し



梅花新聞【香里】
第32号

題字 管長 大道晃仙 禅師
発行者 測 英 徳
発行所 曹洞宗務庁
企画編集 伝道部詠道課

お誓い

- ・私達は梅花流詠歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

平成二十二(二〇一〇)年の新春を謹んでお祝い申し上げ、ここに梅花講員の皆さまのご多幸を祈念いたします。

平成十四年十月に大本山總持寺に晋住して以来三度目の曹洞宗管長職に本年就任しました。旧年中の宗門各方面へのご支援に対し、心より敬意を表するとともに、本年も変わらぬお力添えを何とぞよろしくお願い申し上げます。

梅花流は、昭和二十七(一九五二)年の道元禅師七百回大遠忌の際に、宗門の教えと両祖さまのご生涯をわかりやすく世の中に広めることを目的として創立されました。爾来、数え切れないほど多くの方がたの並々ならぬご尽力があつて、今日の隆盛がもたらされています。

さて、「修行」とは文字通り行を修めることですが、この行とは「仏行」のことです。行住坐臥(日常の生活)において仏としての生活を実践するということです。

そして両祖さまは、各自が日々仏道に徹し、誠実に行ずることこそがすなわち慈悲行の実践に他ならない



心如水

とお示しになりました。行いによって自ずと周囲全体が教化されてゆく世界です。詠道においては、皆さま一人ひとりが余念をはさまずに至心にお唱えを実践することが大切です。そのときに心は静かに安定した水の如くになっておられることでしょう。それによって、知らぬ間に周りの人びとは安心に導かれ、自らも法悦(ほうえつ)に至ります。これは菩薩の慈悲行に連なります。皆さまが仲良くともに詠道に励まれることにより、その輪が次第に大きな輪となつて明るい世の中につながつてゆくことを衷心より念願申し上げ、新年のご挨拶いたします。

特集

世界に羽ばたく梅花流詠讃歌



寺院

サンパウロ市南米別院仏心寺

采川道昭国際布教総監のもと、週一回の練習、各種法要での奉詠を通して、梅花に親しんでおられます。

上級者から、今年入講された方まで、幅広くまた、たくさんの方々が常住されている南米別院では、心暖かなゆとりを感じます。



お誓い

モジダスクルーゼス市禅源寺

昭和三十年に高階禅師がブラジルを巡回された際、お迎えするに当たってブラジル最初の曹洞宗寺院が準備され、禅師を迎え入仏法要が行われ、禅源寺と名付けられました。

「昨年、昨年、そして今年も入講される方がありました。梅花を正しく伝えていきたい」と、入講二十五年目の木谷さんは後輩や仲間へ想いを伝えていきます。



禅源寺

今は、佐藤鴻舟副住職を中心に力を合わせながらローマ字・ポルトガル語の梅花教典を試作中。

日系会館

各日系会館は、なかなか師範が指導に訪れられないのが現状だが、布教所から発展した日系会館に、講員さん方が集まり、梅花に親しみ、曹洞宗の教えを守り受け継いでいます。

イタペチニンガ日系会館

活動一年(九名)、仏心寺から月一回師範が訪れて活動。「外は、太陽が当たって暖かいよ」という声があり、椅子を持ち出して外で声を出すことも。



イタペチニンガ日系会館

ポンペイア日本人会館

月一回集まり練習を行う。



ポンペイア日本人会館

ラビーニャ日系会館

七名のメンバーが月一回集まり練習を行う。今は皆ブラジル生まれの日系二世の方々を中心だが、梅花を守り伝えておられ、ひたすらな信仰心を感じます。



ラビーニャ日系会館

ブラジルに渡った梅花流



ローランジャム心寺

昭和三十三年、檀信徒の三屋を仮礼拝所として、パラナ州初の曹洞宗礼拝所が産声を上げ、昭和三十五年十月には「ローランジャム心寺」として落慶入仏法要が厳修され、現在に至っています。



熱心に練習

十四名の講員さんは、法要の度にお寺に集まり、必ず詠讃歌を奉詠します。



北米

北米には北アメリカ国際布教総監部の
ある両大本山北米別院禅宗寺に梅花講が
設置されており三十名を超える講員さんが
おられます。その他にも各地に梅花を練習さ
れるお仲間がおられます。

(今回は残念ながら取材できませんでした。)

スイスに芽生えた梅花流

●スイス国 ジュネーヴ曹洞禅センター

ピエールジェラルド覚道

二〇〇七年夏の撰心の折、宮城県大満寺の西
山詠範によって詠讃歌が披露されました。最初
は単純で美しい歌と受け取られましたが、入門
の手ほどきはとても反響を呼びました。

その後、要望があり詠讃歌グループが作ら
れ、今では詠讃歌を趣味本位なものではなく、
曹洞禅の教えの一環として披露できるまでに発
展しました。

昨年からはジュネーヴの
仏教団体の行う催し物で
御詠歌が披露されていま
す。参加した人々は驚きの
表情を見せ、御詠歌が禅
実践の二つの表現であるこ
とを実感させられています。合
唱はスイス文化の一部なので、共
に唱える詠讃歌はスイス伝統
音楽の世界によくマッチしたも
のであるといえます。



これからも継続して練習を
続け、ジュネーヴはもとよりスイ
ス国内で梅花の活動が広がる
ように努力したいと思います。



催しで披露



スイスの詠讃歌グループ

ハワイに広がる梅花流の輪

●ハワイ別院正法寺

ハワイ別院正法寺の建物は、イン
ド様式の優美な佇まいです。建物の
趣きは日本と異なっても、信仰を求
めようとする講員さんの思いは日本
の方々と一緒です。昭和三十三年の
梅花講設立はハワイでは一番早く、
その時からの講員さんもいらつしや
います。お仲間の中には、百歳を越
えて元気
にお唱え
をしてく
る方もお
いにな
ります。



インド様式の正法寺

●アイエア太平寺

ハワイのお寺の本堂は、どこか教会に似
た造りです。正座の習慣がなく、イスを使
うのでお唱えは立行が中心です。講員同士

の会話はすべて英語です。ご覧下さい、講
師の話を一言も聞きのがすまいとするこの
真剣な眼差し。



太平寺

●ヒロ大正寺

大正寺はキラウエア
火山で有名なハワイ島
にあります。境内が広
く、本堂には梅花観音
様も奉られています。
日本語の達者な講員さ
んが、ほかの講員さん
のために通訳をして下
さいました。



講習の様子

●ワイパフ太陽寺

ピラミッドをおも
わせる、特徴のある本
堂で、境内には菩提
樹が植えられています。
現在は二十名がお
られます。



太陽寺



大正寺

「皆さまからご寄贈いただいた法具が、 遠く南米の地で役立つています」



南米における曹洞宗の布教活動は百年を超える歴史があります。さらに宗門寺院が設立され半世紀を迎えます。昨年十二月にはブラジルで「両大本山別院仏心寺開創及び南米布教総監部設立五十周年」の記念慶讃法会が行われました。その折には詠讃歌が奉詠され、梅花流が南米に根付いた姿を見せてくれました。

梅花流を南米に広める当初は、寺院だけでなく各地に設置された布教所に師範を派遣して梅花を広めたそうです。当時は派遣された師範が梅花の指導を行っていましたが、現在は当時梅花を習った方々が中心となり練習をしていたっており、お葬式や法事の際には御詠歌がお唱えされています。

前項でも紹介したポンペイア市にある日本人会館には、梅花流が広まった当初から御詠歌を習われているお仲間、九十九歳になる花田頼子さんがおられ、四十年間



99歳の講員さん

休まずに現在も頑張つて御詠歌の研鑽にはげんでいます。ポンペイア市には花田さんをはじめ約十名のお仲間がおりますが、使用している梅花法具は日本の講員様方から頂いたものを、親から子へと受け継ぎ長い月日の間、大事に使用しております。

海外での梅花流の活動で苦勞することのひとつは法具を調達することです。

ヒオ・グランジ・ド・スウ州ポルトアレグレ市にある曹洞宗僧侶ヘブンス一心師を中心とした地元ブラジルの方が集まる参禅会では、二年前から御詠歌の練習をしています。ここでは法具を見よう見真似で手作りされています。鈴の鈴玉はポルトやナットで代用し、コンロのバーナー部分で鉦を、木を削つて撞木を作つて詠道に精進されています。

昨年はこの参禅会にも特派師範が巡回に訪れ、日本のみなさんから寄贈いただいた法具をお届けしま



手作りの法具

した。
今後皆さまから使用していない法具のご寄贈をお待ちしております。いただいた法具は南米をはじめとする海外の梅花流を学ぶお仲間のもとにお贈りしています。みなさんの梅花への思いが法具と共に海外のお仲間へ届いています。



届いた法具で早速練習

●海外の講員さんに法具を とどけましょう

海外にも梅花流が根付いてきており、梅花流特派師範が毎年現地を巡回講習されますが、大変好評のご報告です。しかしながら、海外の講員さんに法具が行き渡らない状況にあります。みなさんのお手元に使用してない眠っている法具がございましたら、ぜひ詠道課までお送りください。海外の梅花講へお届けいたします。



取材協力 南アメリカ国際布教総監部 賛事 越賀道秀
島根県明元寺 森山祐光 特派師範

送付先 〒105-8544 東京都港区芝二丁目二
曹洞宗宗務庁伝道部詠道課 宛

「ワンポイント・レッスン」



梅花流専門委員
北海道 天総寺
谷 暁雲

いつでも前仏奉詠のごとくに…

お稽古の時もすべてのお唱えは気持ちを整え息を調べて、いつでも仏さまの前でお唱えさせていただく心構えが必要であります。

法具を整え、姿勢を整え、お稽古も真剣でなければなりません。その歌詞の内容を理解し、何度も繰り返し返しの唱え込みをして心と体に染み込ませるとよいでしょう。隣寺の講員さんは「梅花は難しいけど毎日が楽しいです」とのことです。何事も続けることが肝要です。しかもお仲間と共に楽しく続けることです。

お唱えのイロやツヤなども大切な要素ですが、音の要素(音程・強弱・長短)をしっかり捉え、間違いない正しいお唱えが大事です。間違ったお唱えは仏さまにも申し訳がございませんね。先般、八十三歳の講員さんが検定を受けられました。梅を味わい、梅花の和と輪のあるお唱えでした。梅を味わい、梅花の和と輪を広げましょう。さあ、みんなで歌いましょう。

花供養御詠歌(供華)

み仏さまにたてまつる心からの莊嚴であることを理解してお唱えすることを勧めます。「このころ」は1・3・1・3符と唱える方が結構いらつしゃいますが、2・2・2・2符であることを捉え、急がずお唱えしてください。梅花流詠讚歌の拍の中でこの2・2符が一番難しいと思います。三宝御和讃も全く同じです。「花そのふ」は「はな」の後、四分の一拍の休止符がありますが、しっかりと生かしてください。休止符を生かす、拍を生かすとは、気持ちをゆつたりさせ、急がず正確にお唱えすることです。「唱念」は撞木の所作を拍に合わせるタイミングにそろいます。後半に3・1符がありますが、そのリズムを2・2符と区別してしっかりとお唱えください。最後の「ばーや」の「ば」は1・3符の1を生かしてお唱えください。三世の諸仏に心からご供養を申しあげる、そのことに喜びを感じ、心から手を合わせる事が大切なことではないでしょうか。

誦唱法

花供養御詠歌(供華)

厳かに明るく

半拍を正しく

詠衆の打鉦をそろえるため、二拍しつかりのばす

拍速四五位

短くならないように

唱念をそろえるため、二拍をしっかりとばす

撞木の上げ下げをそろえる

3拍に注意

3拍の連続を生かして唱える

のびやかに

たてまつらばーや

けにたてまつらばや

はなそのふみよのほと

(頭) このころあまつそらにも

平成二十一年度 宗務庁主催梅花流檀信徒講習会

両大本山講習会 体験記

今年も両大本山にて宗務庁主催 檀信徒講習会が開催されました。毎年、全国から多くの講員さんに参加していただいています。今回はこの講習会の様子をご紹介します。

大本山永平寺 檀信徒講習会

平成二十一年十月二十一日～二十三日



詠唱が法堂にひびきます

杉の巨木が立ち並ぶ深山幽谷の地にくぞくとお集まりになる講員さま方。今年是全国より八十四名の檀信徒講員の参加を得て開催されました。

開講式は永平寺法堂にておごそかに行われました。導師をお勤めいただいた大本山永平寺副監院松原徹心老師からは、ごあいさつの折り、「開講式で参加者全員でお唱えされた御詠歌が法堂にひびく様子に心打たれました」とのお言葉を頂きました。

三日間の日程のうち講習は九回。講師には安田哲雄、岩田大法、長谷誠悦、田川保雄の各師範をお迎えしました。

講習会中は快晴に恵まれ、特に二日目の「大本山永平寺第一番御詠歌(溪声)」の講習に先立っては、道元禪師七五〇回大遠忌の際に整備された、苔生した美しい寂光苑を参加者全員で散策し、「峰の色溪の響も」と歌われる深山の溪声に耳を澄ませていた様子でした。



講師の師範



大本山總持寺 檀信徒講習会

平成二十一年十一月十日～十二日



大祖堂で開講式



海の玄関として華やく横浜市にあり、鶴見区に位置する大本山總持寺は、鉄筋の建造物では国内最大級になる大祖堂をはじめとする大きな伽藍に囲まれ、厳かな雰囲気にも包まれています。本年もここ總持寺にて檀信徒講習会が開催され全国より百二十名もの参加者が集まりました。

の各師範をお迎えしました。

初日は晩秋の雨に見舞われましたが、伽藍を覆う雨音と参加者の鈴鉦の音があいまって響き、趣のある情景を醸し出していました。

また、講習会中は百間廊下に地域住民と總持寺の交流の一環として、色とりどりの菊が展示されており、講習会に色を添えてくれました。講員さんには朝課の後、修行僧の案内で諸堂拝観をしていただき、菊で彩られたこの廊下を散策していただきました。



菊で飾られた廊下

大本山永平寺 檀信徒講習会

私が御詠歌を習い始めたころ、脳梗塞という思ってもみなかった病に一時は絶望に陥りました。その時に支えになったのが御詠歌です。あれから二十年が経ち、今回も山門に立った時「あー、今年も参加できた」と喜びがこみ上げ、お知り合いになった方々のお顔を見ると、胸震える思いになりました。講に帰っても一人でも多くのお仲間が増えるように頑張るつもりです。まことに有難うございました。

鳥取県 慶寿院講 田中一洋



全体班長をお務めいただきました



早朝の回廊を登るみなさん



食事の様子

毎回の食事は永平寺修行僧の手作りの精進料理です。食べるにも作法があり、食事も修行のうちということを体験してもらいました。

朝のお勤めにも参加いただいています。早朝五時、まだ日も昇らないうちに法堂に上がり、修行僧の読経の中、本尊さまにご焼香します。その後、修行僧に七堂伽藍を案内してもらいました。

永平寺での講習会は、朝夕の「正しき行持」を体験できる貴重な講習会です。来年も講師の皆さまの参加を心よりお待ちしております。



寂光苑にて散策・ご法話

ばい か く ん イ ン タ ビ ュ ー

山門をくぐれば心身共に引き締まり、老杉を仰ぎ見る時、えもいぬ心境になりました。閉講式に「正法御和讃」の詠頭をすることが決まっていたのを見てびっぴりしたと同時に、大きな喜びと幸せを感じました。今回参加できた幸せを胸に抱きしめて詠道にはげみたいと思っております。

京都府 円覚寺講 大島ひさゑ



今回最高齢 88 歳の元気な詠頭

大本山總持寺 檀信徒講習会

きた鉦の音につられ、心の拠り所を求めて入講して十五年の月日が経ちました。

その間、各講習会に参加し、検定が進むにつれて詠讃歌の奥深さを痛切に感じています。今回参加して講師の先生方のご指導と温かい雰囲気を受け、心よりお礼申し上げます。今は亡き長男の面影を心に秘めながら、同行同衆励ましあって詠道にいまそしてみたいと念じています。

静岡県 眞珠院講 山田彰義



開講式で詠頭をお唱えいただきました

長男の逝去によりその寂しさに耐えられず墓参した折、本堂から聞こえてきた



大般若經の転読



本衆寮

朝には特別に本衆寮で坐禅を組んでいただき、ひととき修行僧の気分を味わっていただきました。坐禅に続く朝課では、大勢の修行僧がいつせいに大般若經を転読し、参加講師さんの講習中の無事を祈願いただき、その後、読経の響く中、講員さんにはご焼香をしていただきました。

總持寺は特に交通の便もよく、講習会には全国津々浦々から講師さんに集まっていたことができ、お仲間同士の良き出会いの場ともなっています。休憩中には「今年も会えてよかったね」という声も聞こえてきて、みなさん和やかに講習をされていた様子でした。

写真：總持寺出版部提供

私はお誓いを唱える度に梅花流は素晴らしいなとつくづく思っております。又そのお誓いを実行していくことが、梅花の道だと思ひ今まで頑張ってきた。何より仲良く正しい信仰に生きる事が、明るい梅花流になると思っております。

青森県 浮木寺梅花講 坂本八重子



お誓いをお唱えいただきました

ばい か く ん イ ン タ ビ ュ ー



● 新型インフルエンザ猛威をふるう

昨年は新型インフルエンザが全国的に猛威をふるい、蔓延期と重なった五月の梅花流全国奉詠大会（於大阪市舞洲アリーナ）は取りやめの止む無きに至りました。その他にも梅花流地方奉詠大会では危機管理のため中止に至るものがありました。

今なお続く感染拡大を防止する為、宗務庁ではポスターを作製し、一人ひとりが自覚を持った予防に取り組むよう促しております。



ポスターについてのお申込は教化部まで

● 平成二十二年度全国大会のご案内

来年度も大阪市舞洲アリーナにて梅花流全国奉詠大会を予定しております。登壇される皆さまには昨年披露できなかった練習の成果を今年ぜひご披露くださいますよう、ふるっ

てのご参加お待ちしております。

また、梅花流を広めるマスコットキャラクター「ばいかくん」が今大会でのデビューの機会を心待ちにしています。実はこの『香里』で講員さんへのインタビュアーとして生まれ



た「ばいかくん」。梅花流の楽しさや素晴らしさを伝えるため、紙面を飛び出し会場活躍する予定です。



● 年功章をお持ちの方へ

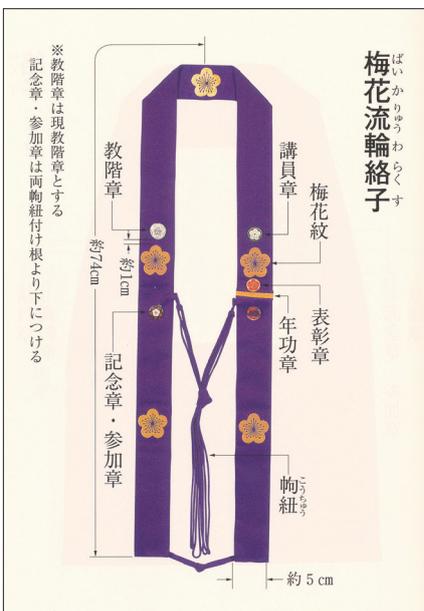
近年になり年功章を授与された方で輪絡子に付けてない方が多く見うけられます。

特に検定会では年功章をつけていただくことで、梅花流の発展に長年ご尽力いただいているという功績が一目で分りますので、お持ちの方は是非輪絡子の所定の位置に付けていただきますようお願いいたします。

また、梅花流も再来年に六十周年を迎えます。

それに際し、各梅花講議長におかれましては記念奉讃大会の奨励賞・年功賞に当たられる教範の方のご確認をお願いいたします。

※年功賞の位置は左記をご参考ください。



※教階章は現教階章とする
記念章・参加章は両軸紐付け根より下につける

編集後記

今回は取材の中で両大本山の檀信徒講習会を訪れました。永平寺では寂光苑の川のせせらぎや滝の轟きの中から講員さんのお唱えが聞こえてくるような気がしました。總持寺では、百間廊下に飾られた菊を眺め、『花供

養御和譜』「：色とりどりの花々を 捧げまつらんみ仏に…」の詩を思いうかべました。

詠讃歌のすばらしいところは、普段の生活のなかで一生懸命に覚えたお唱えの響きや歌詞が思わず頭に浮かんでくることではないかと思えました。

編集担当

曹洞宗のホームページ「曹洞宗ネット」で詠讃歌がぎけます。

<http://www.sotozen-net.or.jp>